

第2回みやぎ観光振興会議仙台圏域会議 委員等発言要旨

日時：令和2年7月22日（水）午後1時30分から

会場：宮城県仙台合同庁舎10階1001会議室

意見交換① 議事（1）～（3）についての事務局説明後

鳴原委員

- 東京オリンピックについては、開催されない場合も想定しておかなければならないと思う。
- オリンピック関係で、次年度のバスの予約も受けている。
- もちろん開催された方が良いが、非常に期待している分、開催されなかった場合に結構な痛手になるのではないかと思う。

大宮司委員

- 資料4に、方向性・具体的な取組として「感染対策を実施している事業者が張り出せるステッカー・標示等を迅速にする」と記載されているが、迅速に配布することについては再検討が必要と思う。
- それぞれのお店ごとに対応に迫られて既に張り出しているところが殆どなので、新たに網羅的に配る必要はなく、必要な人に届くような仕組でないと無駄がでる。
- ステッカーが本当に意味を持つためには、県が、感染対策の基準（ガイドライン）を作って、事業者がこの基準（ガイドライン）に沿った対応をお願いし、各事業者がこの基準（ガイドライン）を見て、そこまできているかいないかを自分で検討・検査してから、自己申告を行って初めてステッカーを頂けるとか、そのような順番、手順が必要だと思う。
- そういったことが分かるように、事業者にもお客にも分かるような周知があつてからになると思うので、迅速に配布するのは、是非再検討いただきたい。

事務局

- 県では現在、「安心な観光地づくり推進事業」に取り組んでいる。
- これは、一定の基準を満たした感染対策を講じている宿泊施設を応援する取組で、宮城県ホテル旅館生活衛生同業組合などの関係団体と連携して実施しており、今後、宿泊施設だけではなく、観光施設にも対象を広げていきたいと考えている。
- 内容としては、感染対策のセルフチェックシートを作成しているので、まずはそれを使って宿泊施設ごとにセルフチェックをして、県にお送りいただく。それを県が確認し、基準を満たしていれば、むすび丸をデザインしたポスターやステッカーをお送りする。また、御参加いただいている宿泊施設については、宮城県観光連盟のホームページに掲載し、PRを行っている。
- くまなく配るというよりは、しっかり取り組んでいる方々に配布するという取組になっている。

富谷委員

- 戦略の基本理念のポイント④「もう一段踏み込んだ高付加価値の取り組みを進める」という点で、中期的なものとして、コト消費につながる観光資源の掘り起こしが必要だと思う。
- 例えば、石巻市周辺で行われている Reborn-Art Festival のように、心を動かすようなものがあると、一つのきっかけになるのではないかと思う。
- 松島町でも、夜間にプロジェクトマッピングなどを行っていて、多くの人が集まっていた。
- 日中は観光をしていただいて、夜は目新しいものとして、県全体でそういったものが色んなところで行われていれば、また人が動くかと思う。

太見委員

- 戦略の視点1(1)「観光地として選ばれるために、安全・安心の面的対策とその見える化」というところで、1点質問がある。
- 観光客の安全・安心を担保することも当然だが、観光に携わる事業者、従業員の安全・安心については、どの程度進んでいるのか。
- 新型コロナウイルス感染症の疑いがあるという時の緊急連絡先を見える化することも、安全・安心に繋がると思う。

山口座長

- 新型コロナウイルス感染症の疑いがある場合には、相談窓口や最寄りの保健所に御連絡いただきたい。健康状態を詳しく伺い、段階を踏んでPCR検査や一時療養、入院などに繋がっていく。
- 周知不足の部分もあると思うので、担当部局の方にもこのような御意見があったということをお話ししたいと思う。
- また、業態ごとに業界団体等が作成しているガイドラインは、お客様だけでなく、従業員に対しての安全対策という部分も含めた内容となっていると思うので、各省庁や団体のホームページ等で御確認いただければと思う。

島谷委員

- 戦略の視点1「安心ブランドを醸成し、選ばれる観光地をつくる」という点について、受入側の感染対策は徹底していると思うが、訪れる方に対して感染症対策を促すだけでなく、宮城県は県全体で徹底することをもっと強く打ち出すべきではないか。
- マスク着用などの注意喚起は既にポスターをはじめ様々発信しているが、旅行となると忘れがちになりやすい。そういった方に対して、各事業者や個人が、直接、強く注意喚起をすることには限界がある。体温の基準など不明瞭なことも多い。そこで、ポスター等ではなく、「宮城モデル」として注意喚起を相手に示す多言語カードのようなものをつくり、配付することができれば各事業者等の負担は軽減するのではないか。今は、お互いが徹底して注意すべき時で、トラブル発生時の連絡先などがはっきり分かるような標示があると、観光の最前線にいる方々や県民の不安も少なくなると思う。

林委員

- 新型コロナウイルス感染症の影響で、例年5・6月に最盛期を迎える修学旅行や教育旅行が、全国的に、秋に振り替えられている。この秋の傾向としては、9～11月頃に、非常に多くの学校の方々が宮城県にいらっしゃる。この機会に、宮城の良さをしっかりアピールして、次年度以降も首都圏だけではなく地方にも、教育旅行に来てもらえるような取り組みをしたいと思う。
- 現在、東北の各県や新潟県、北海道というエリアから御連絡をいただいている。隣の岩手県も、新型コロナウイルス感染症の感染者がゼロということで、非常に多くの受け入れがあると聞いている。これは、東北域内での相互の動きが活発化しているということだと思う。
- 「東北六県相互に交流しています」「東北は安全です」という東北全域としての安全宣言のようなもの出して、全国にアピールした方が、インパクトがあるのではないかなと思う。

鈴木委員

- 修学旅行・教育旅行では、実際に東北地方はかなり注目されている。東北地方は他地域と比べて新型コロナウイルス感染症の感染者発生率が低いという点も、その要因の一つだと思う。
- 安全性というのは、集客や交流人口の増加という点で大きな要素になっており、修学旅行に限らず、中長期的なインバウンド対策においても、非常に大きな問題になってくると思うので、皆で協力して情報発信していけるような対策を考えていかないと、置いていかれるような感じだと困る。
- 今、東北や宮城県を向いているお客様が来年・再来年と続くように、一過性で終わらないような受入の方法を考えていきたい。

大崎委員

- 地域柄、宿泊客は観光よりも仕事で来られる方がメインで、長期だと半年近く宿泊される方もいる。
- 県内には様々な企業が立地しているので、そのようなところに、県内の良いところをPRすることができないかと考えている。
- また、企業の福利厚生の一環として、県内の色々なところを行き来する方法があると、単に仕事できて宿泊するだけでなく、休日にどこか行ってみようという気持ちになるのではないかなと思う。

林委員

- インバウンドのお話があったが、当面は戻らない、数年かかるという見方があると思う。
- 宮城県に限らず、東北は冬の観光が弱く、12～2月に観光客が非常に少なかったところに、冬を知らない、雪を見たことがないインバウンドのお客様は非常にありがたかった。それがこの冬から見込めないとなると、東北は冬が厳しくなる。

- これに対して、ニューノーマル的なイベント，例えば SENDAI 光のページェントのような屋外のイベントを1・2月もずっと開催するなど，冬の集客に向けたイベント等のきっかけ作りも考えていただければと思う。

意見交換② 議事（４）についての事務局説明後

加藤委員

- 例えば、本塩釜駅で降りて（株）佐浦さんの前を通って鹽竈神社を見学するような、個人的に密にならないような観光についても、一つのモデルとして出していただきたいと思う。
- また、利府町の宮城スタジアムで、東京オリンピック・パラリンピックのサッカー競技が開催されるということで、利府駅からスタジアムまでの道に、Wi-Fiを整備できないかと利府町へ商工会として話をしたことがあった。インバウンドのお客様や若い世代はネット環境を重要視しているので、そのような整備も県の方でしていただければと思う。

小松委員

- 松島の現状として、6月にほとんどの旅館・施設が再開したが、観光客の入込人数は昨年対比で20%程度。宿泊客は7月に入っても県内のお客様が8割、県外が2割という状況が続いている。
- 資料4に、方向性・具体的な取組として、マイクロツーリズムで県内のお客様に動いていただくというプランが書いてあるが、観光業者としては、100万人台の県内のお客様だけでは、年間を通しての事業を成り立たせるのは難しいと思う。
- やはり新潟県も含めた東北域内、それから東京都からのお客様など、段階的に回復しないと、宮城県の観光業の成り立ちは難しい。このため、安全・安心の部分各事業者が確実に守って、アピールしていくことも大切だと思う。
- 街歩き、食べ歩きを引っ張っているのは、若い方たちである。松島の観光は従来から、観光名所を見て駆け足でまわって、ほかの観光地に行くのが主流だった。若い方による街歩きや食べ歩き、スタンドアップパドルの体験や、今まで松島ではご覧いただけなかったような地域を案内するガイド事業を始めた方など、新しい波が少しずつ出てきている。これを若いお客さんがSNSにその写真をアップして、結構松島を宣伝していただいている。
- このようなことを仙台圏域の色々なところで、地元の魅力をどんどん紹介して、地元を楽しむということは、安全・安心にも繋がる。そういったところを大いにアピールしていく必要があると思う。

村上委員

- 私達の身近なところに、まだ知らない魅力や発信すべきところがあると感じた。また、東北六県とまでいかないでも、宮城県内の地域の方々が今こそ連携をして、何かできるのではないかと感じた。
- 森林整備のボランティア活動を行うイベントを開催したところ、新しい生活様式に十分留意しながらではあるものの、久しぶりに汗をかけて気持ち良かったという感想をいただいた。小さなところからでも、身近な人と楽しむ、宮城県ならではの連携がとれた集まりなども、まだまだできると思う。

早坂委員

- 観光の活性化という意味では、感染対策の明確な基準を出すことで、観光客が増えてくるのではないかと思う。また、感染源になり得るところを国民・県民にきちんと理解してもらうことも必要だと思う。
- 新しい生活様式についてもワクチンが出るまでの辛抱だというメッセージを積極的に出すなど、いずれ明るい雰囲気も作っていかないと、外に遊びに行こうとはならないと思う。
- 単独の市町村だけでは、観光客に2日・3日過ごしてもらうのは難しい。周辺市町村とともに専門家からの意見を伺って、それも持ち帰って担当市町村の会議の場で議論をする機会もあって良いのではないかと思う。

武田委員

- 今の状態で、関東圏の方を観光客として呼ぶのは、怖いものがあると思う。その時々の状態を踏まえて、柔軟な姿勢で対応するのが一番良いと思う。
- また、岩沼市でいうと竹駒神社や金蛇水神社などの観光施設があるものの、発信力が弱い部分がある。各市町村の観光に携わる方々の発信力を集約して、大々的に宣伝するようなことが必要だと思う。

太見委員

- 東北大学や宮城大学などの留学生から御意見を聞くという機会も大切だと思う。今後のインバウンド誘客に当たって、彼らから今の宮城がどう映っているか、外から見た宮城県という意見を参考にすることを御提案したい。
- この視点でいくと、宮城県内の人達で話すのももちろん大切だが、他県の人から見て宮城県がどう映ってるかということも一つの指標にできたら良いと思う。
- なぜ留学生の話をしたかという、留学生は自ら宮城県の魅力や情報を、自分の SNS で発信してくれる。情報をたくさん発信してくれるのであれば、みやぎ観光振興会議というものを宮城県が開催していて、いずれインバウンドのお客を迎えるための様々な取組をしているということも、世界に向けた安全・安心の発信になると思う。
- また、世界に対して宮城県は安全だと発信していくのであれば、外国人留学生や労働者、技能実習生で来ての方が新型コロナウイルス感染症に感染した際の対応についても、検討する必要があると思う。

大宮司委員

- 宮城県の環境やエコなイメージ、SDGs や持続可能性を意識した取組をしているという発信の仕方ができればと考えている。
- 私のお店ではフェアトレード商品を取り扱っていて、お客様も増えてきているが、まだ伸びしろがあると感じる。日本の各地でフェアトレードタウンがいくつか認定されているが、そのような方向性も良いと思う。
- 海外から日本を見ている方々は、SDGs やグリーンニューノーマル等に関心が高く、宮城

県のそういった方向性や発信に敏感だと思う。そのようなアピールが将来的なインバウンドの目的地選択の要件になってくると思われ、また、自分も自信を持って宮城は良いところだと発信できる。